

-----  
[ 成果情報名 ] 小鉢生産のためのヤマアジサイの品種選定と4月出し栽培技術

[ 要約 ] ヤマアジサイは、着花形態により頂芽着花型と側枝着花型に分類され、側枝にも花芽分化する側枝着花型品種「クレナイ」、「シチダンカ」、「七変化」および「深山の八重」は小鉢生産に適する。苗生産では、鉢上げ6週間後に緩効性肥料を2 g/鉢与えることでコンパクトな苗ができる。夜間最低気温 13℃ 加温によって4月下旬出しが可能であり、定植後の施肥は、緩効性肥料(マイクロロングトータル 201)100 日タイプを、4号鉢当り4 g用いることで高品質の鉢物を生産できる。

[ キーワード ] ヤマアジサイ、小鉢生産、品種、育苗、栽培夜温、緩効性肥料

[ 担当部署 ] 花き部・花き栽培チーム

[ 連絡先 ] 092-922-4958

[ 対象作物 ] 花き・花木

[ 専門項目 ] 栽培

[ 成果分類 ] 技術改良  
-----

[ 背景・ねらい ]

本県における平成16年の鉢物類の生産面積は101ha、生産額は65.6億円である。しかし、単価の低下が続いており、新品目や新品种の導入および新作型の開発による収益の確保が求められている。また、品目や品種の変化が加速しており、特に需要の大きい「母の日」のための4月出し栽培において、常に新しい商品の開発と市場への提案による変化の先取りが求められている。そこで、シクラメンと組合わせて生産の多いアジサイ生産者の商品開発を支援するために、ヤマアジサイの品種を選定し、小鉢生産のための4月出し栽培技術を開発する。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1 . ヤマアジサイは、着花形態により、主に頂芽に着花する頂芽着花型と側枝にも着花する側枝着花型に分類でき、頂芽着花型に比べて着花数の多い側枝着花型が小鉢生産に適し、7月下旬に摘心した場合、着花率が大幅に低下するため、育苗時の摘心は必要ない。「クレナイ」、「シチダンカ」、「七変化」および「深山の八重」が鉢物に適する(表1)。
- 2 . 品種「クレナイ」の育苗(11.2cm 径底面給水鉢)では、樋式底面給水で常時湛水した場合、7月下旬に2 g/鉢の緩効性肥料を施肥することで花着きが良く、枝数の多いコンパクトな苗を生産できる(表2)。
- 3 . 2月上旬に加温を開始した場合の栽培夜温は、「クレナイ」の場合 13℃ とすることで4月下旬出しが可能である(図1)。
- 4 . 「クレナイ」の加温促成栽培では、緩効性肥料(マイクロロングトータル 201)100 日タイプを4号底面給水鉢当り4 g用いることで、葉色の濃い、高品質の鉢物を生産できる(図2)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1 . シクラメンの組合せ品目におけるアジサイの新商品栽培技術として活用できる。
- 2 . 苗の着花を確実にするためには、樋式の底面給水栽培により育苗するなど、水切れしない管理を徹底する。また、梅雨明けから10月上旬までは寒冷紗で遮光する。
- 3 . 品種によって生育反応が異なるため、品種特性を確認してデータを活用する。

表 1 ヤマアジサイの品種特性<sup>1)</sup>(平成 16、17年)

着花型	品種名	平均開花日 <sup>1)</sup>	側枝当り		着花数 <sup>2)</sup>			総合評価 <sup>4)</sup>	備考
			着花数 <sup>2)</sup>	%	無摘心(A)	7/26摘心(B)	B/A × 100		
側枝着花型	クレナイ	4/19	3.7	9.7	5.1	53		草姿が優れる	
	クロヒメ	4/8	2.9	7.0	4.3	61		極早生	
	シチダンカ	4/21	1.7	6.3	2.8	45		八重咲きで草姿が優れる	
	ベニガク	4/23	3.9	8.6	1.8	21			
	ヤマアジサイ (原種)	4/20	2.5	4.3	2.3	54		早生	
	ヤマアジサイ (原種)	4/16	6.3	13.3	4.0	30		極早生	
	七変化	4/22	5.8	11.6	5.0	43		複色	
	深山の八重	4/25	1.2	4.0	1.2	31		八重咲き美麗	
	桃花山	4/25	7.4	17.7	5.9	33	×		
	白扇	4/24	0.3	1.4	0.8	57		花つきが特に悪い	
	富士の滝	-	0.3	1.6	0.1	6	×	同上	
	別子テマリ	4/20	2.1	7.0	-	-		新梢が短い	
<b>側枝着花型平均</b>		<b>4/20</b>	<b>3.2</b>	<b>7.7</b>	<b>3.0</b>	<b>39.5</b>			
頂芽着花型	ガクピンク	4/20	1.5	2.9	2.1	72			
	キヨスミサワ	5/11	0.7	2.6	1.7	65	×	花つきが悪く晩生	
	プレジオ・サ	4/19	2.1	4.2	2.1	50		伸びやすい	
	ミドリヤマアジサイ	4/21	1.3	2.5	1.5	60	×	花つきが悪い	
	伊豆の華	4/23	1.7	3.1	2.4	77		枝数が少ない	
	伊予絞り	4/21	1.6	3.1	3.9	125	×	草姿が乱れる	
紅アマチャ	4/23	2.8	5.8	4.5	78				
<b>頂芽着花型平均</b>		<b>4/24</b>	<b>1.7</b>	<b>3.5</b>	<b>2.6</b>	<b>75.4</b>			
西洋アジサイ	在来テマリピンク	4/22	2.7	7.0	3.4	49			
	ピア	5/10	2.9	7.8	3.4	44			

- 注) 1. 挿し木 2003年5月21、26日、鉢上げ7月1日、定植2004年2月18日、夜間最低温度15  
 2. 側枝当り着花数 = 着花数 / 側枝数(無摘心栽培)  
 3. 2004年5月6日挿し木、6月24日鉢上げ、10.5cmポリポット無加温栽培、2005年5月26日調査、側枝数は長さ3cm以上の側枝数  
 4. 優れる、利用可、次点あり、× 不適

表 2 施肥方法が苗の生育と開花数に及ぼす影響<sup>1)</sup>

施肥量 <sup>2)</sup>	施肥時期	1次側枝節数	1次側枝長 cm	2次側枝数	開花数
4g	6月30日	10.5 bc <sup>3)</sup>	27.2 a	4.2 a	14.8 b
	7月28日	11.8 ab	18.4 bc	1.8 abc	15.3 ab
	8月25日	8.7 cd	17.3 c	1.2 bc	14.4 b
2g	7月28日	8.2 d	22.2 b	4 b	19.9 a
	8月25日	7.7 d	15.2 c	0.6 c	4.6 c

- 注) 1. 鉢上げ2004年6月18日、品種「クレナイ」、栽培容器11.2cm径底面給水鉢  
 2. 肥料名 ニュートリコートマイクロ 100日タイプ (N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=12-10-11)  
 3. 同一列内の異なるアルファベットは、Tukeyの多重検定5%水準で有意差あり

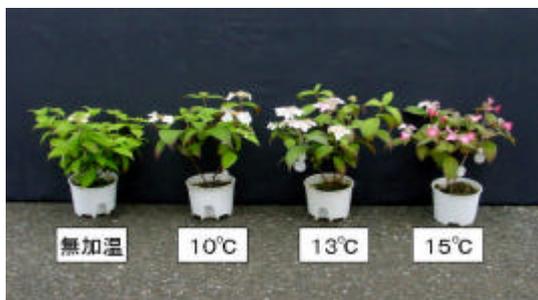


図 1 栽培夜温とヤマアジサイ「クレナイ」の生育 (平成17年)

- 注) 1. 2006年2月1日定植、2月10日加温開始  
 2. 同年5月11日撮影

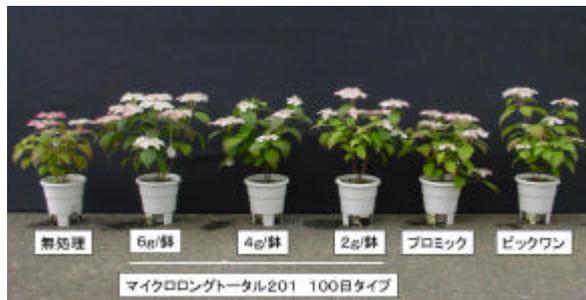


図 2 施肥方法とヤマアジサイ「クレナイ」の生育 (平成17年)

- 注) 1. マイクロロングトータル201 100日タイプ (N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O = 12-10-11)  
 2. プロミックスタンダード中粒 約1.5g/粒 (N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O = 12-12-12)  
 3. ピックワンS 約2g/粒 (N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O = 10-10-10)

[その他]

研究課題名：ヤマアジサイの品種選定と鉢物化技術  
 予算区分：経常  
 研究期間：平成17年度(平成15～17年)  
 研究担当者：松野孝敏、國武利浩